

錦織圭選手によるテニス経験者・未経験者への影響力

1190429 大原 優作

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 概要

本研究は、錦織圭選手の人への影響力が、どのようなメカニズムでどのような影響を各々に与えるのかを解明することを目的としている。消費者行動論を参考に心理メカニズムのモデル化を行い、そのモデルに錦織圭選手を当てはめる。そして、その当てはめたモデルにおいて、テニス経験の有無、年齢により錦織圭選手が与える影響力に違いが生じるか否かを分析する。最後に、その分析結果からテニス経験の有無・年齢と錦織圭選手が与える影響力の関係性について、推論した。

2. 背景

テニス部であった筆者は、錦織圭選手が世界で活躍する前から錦織圭選手に関心を抱いていた。そして、彼が世界のトッププレイヤーとして活躍し始めた頃から、急激にテレビやネットで取り上げられ、テニス経験者のモチベーションを変化させ、テニス未経験者のテニスの関心を高めた。そこで、錦織圭選手が世界のトッププレイヤーとして活躍することで、人々にどのような影響を与えたかを研究していく。

3. 目的

錦織圭選手の人への影響力は、属性別にテニス経験者の大学生・高校生、テニス未経験者の大学生・高校生に分けた際、どのようなメカニズムでどのような影響を各々に与えたかを解明することが目的である。

4. 研究方法

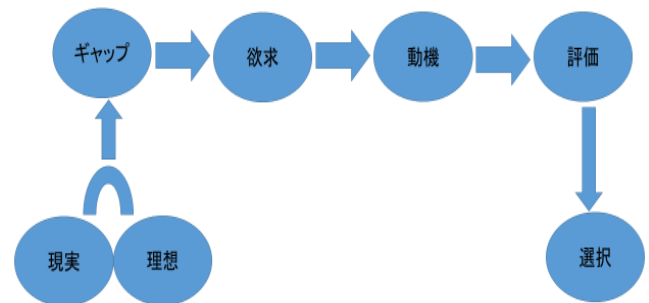
- ①自分と他者を比較して、どのような影響を受けるのかを消費者行動論に基づいてモデル化する。
- ②モデルに錦織圭選手が与える影響のパターンを描いてみる。
- ③実際にどのような影響を受けたかをテニス経験者の大学生・高校生、テニス未経験者の大学生・高校生を対象にアンケート調査する。

④属性別に違いが出るか分析・考察する。

5. 他者により影響が起こる心理メカニズム

5.1 心理メカニズムのモデル化

他者により影響が起こる心理メカニズム



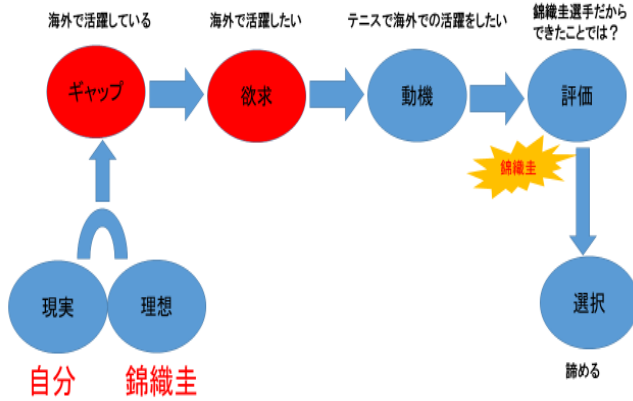
(図1 消費者行動論体系 著者田中洋より筆者作成)

図1は、消費者行動論を参考に、他者により影響が起こる心理メカニズムを描いたものである。ここで、図1の心理メカニズムを説明する。①まず、人は、現実と理想を比較し、ギャップを感じる。ギャップとは、自分にとって、自分の置かれている状況と比較する対象との大きな違いである。②そして、ギャップを感じた際に欲求が生まれる(ギャップを感じなくても欲求が生まれるか否かの流れになるパターンもある)。欲求とは、感じたギャップを埋めてみたいと思う気持ちである。③そして、欲求が生まれた際に動機が生まれる。動機とは感じた欲求を行動に移そうと思う気持ちである。④そして、動機が生まれた際に評価を行い、選択をする。評価とは、本当に自分ができそうなことなのかどうか現実的に考えるということである。選択とは最終的に行動に移そうとする気持ちである。このような流れで、他者により影響が起こる心理メカニズムは成り立っている。

5.2 心理モデルに錦織圭選手を当てはめる

5.1 で説明した心理モデルの理想の欄に錦織圭選手を当てはめた。

錦織圭選手により影響が起こる心理メカニズム



(図2 消費者行動論体系 著者田中洋より筆者作成)

ここから、図2の心理メカニズムを説明する。①まず、現実を自分、理想を錦織圭選手と当てはめ、自分と錦織圭選手を比較する。②そして、比較した際に、錦織圭選手は海外で活躍しているが、自分は海外で活躍していないというギャップを感じる。③そして、海外で活躍というギャップを感じた際、自分も海外で活躍してみたいという欲求が生まれる。④そして、海外で活躍してみたいという欲求を感じた際、テニスで海外での活躍をしたいという動機が生まれる。(動機の項目は、テニスという手段で欲求を叶える場合とする) ⑤そして、テニスで海外での活躍をしたいという動機が生まれた際、本当に自分ができそうなことなのかどうか現実的に考え、錦織圭選手だからできたことでは?という評価を行う。⑥そして、最終的にはテニスで海外での活躍という行動を取らずに諦める選択をするというメカニズムである。

本研究では、図2の心理メカニズムのギャップ、欲求の二点にのみ注目して研究を進めていく。

6. アンケート調査

*調査目的

5.2で提示した心理メカニズムに当てはめた際、属性(テニス経験者の大学生・高校生、テニス未経験者の大学生・高校生)により、錦織圭選手からの影響に差が見られるか否かを解明することが目的である。

*調査対象

- ・テニス経験者(高知工科大学学生、高知大学生計60人、土佐高校生38人)
- ・テニス未経験者(高知工科大学学生99人、高知丸の内高校生32人)

*質問事項

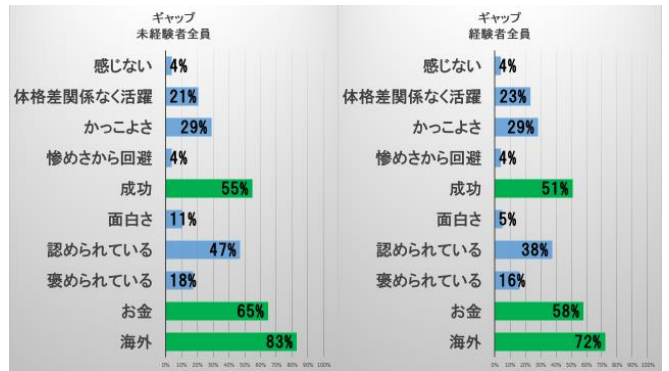
・錦織圭選手と自分の置かれている環境を比べて、何に対して強く違い(ギャップ)を感じますか?

・錦織圭選手の活躍等により欲求は生まれましたか?

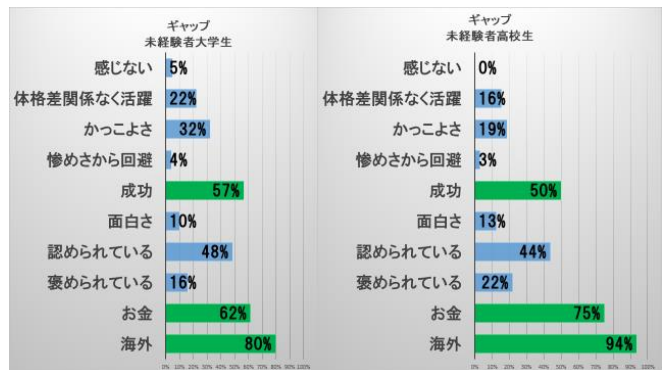
回答内容はこちらが準備し、回答方法は選択式、複数回答式で回答して頂いた。

7. アンケート結果の分析

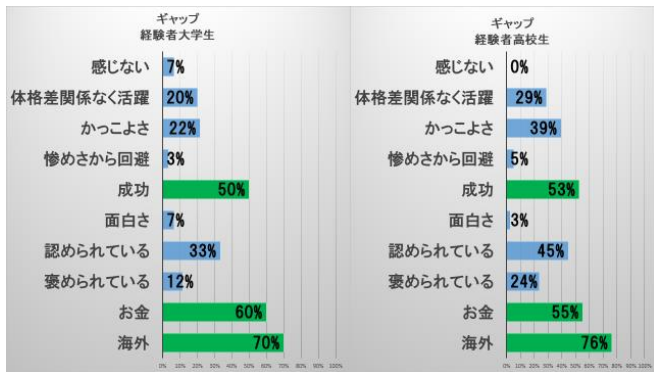
7.1 ギャップに関する回答



(図3 錦織圭選手と自分の置かれている環境を比べて、何に対して強く違い(ギャップ)を感じたか 対象:テニス未経験者全員・テニス経験者全員 筆者作成) ※全員とは大学生と高校生の合計を意味する。



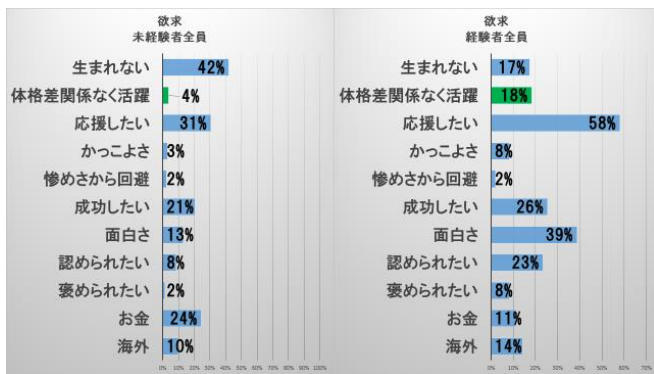
(図4 錦織圭選手と自分の置かれている環境を比べて、何に対して強く違い(ギャップ)を感じたか 対象:テニス未経験者大学生・テニス未経験者高校生 筆者作成)



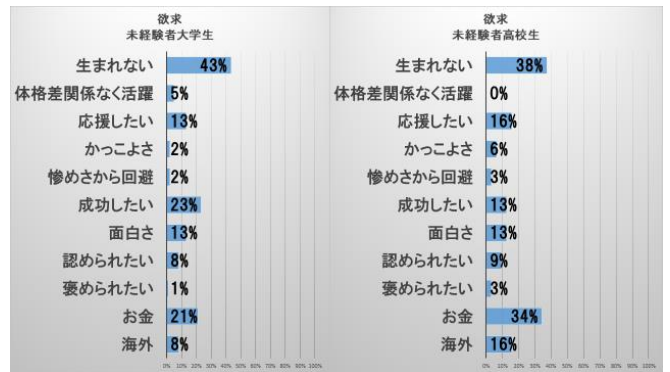
(図5 錦織圭選手と自分の置かれている環境を比べて、何に対して強く違い(ギャップ)を感じたか 対象:テニス経験者大学生・テニス経験者高校生 筆者作成)

経験者と未経験者の比較、大学生と高校生の比較をしたが、特に大きな違いはなかった。そこで、項目欄の回答率について分析すると、テニス経験の有無、年齢を問わず「海外」(78%)「お金」(62%)「成功している」(53%)という項目に強い反応をしていた。筆者は、この結果から、テニス経験の有無・年齢を問わず、錦織圭選手が「海外で活躍しているスーパースター選手」という印象が強いため、「海外」「お金」「成功している」の三つのギャップが生まれる割合が高いと推論する。

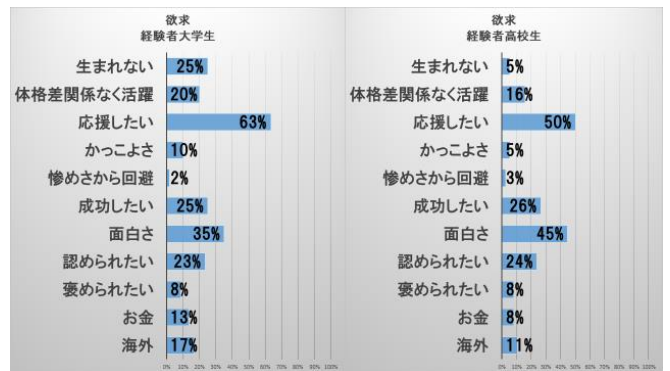
7.2 欲求に関する回答



(図6 錦織圭選手の活躍等によりどのような欲求が生まれたか 対象:テニス未経験者全員・テニス未経験者全員 筆者作成) ※ 全員とは大学生と高校生の合計を意味する。



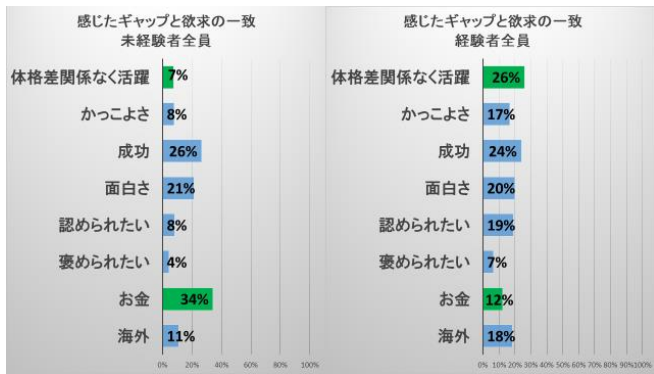
(図7 錦織圭選手の活躍等によりどのような欲求が生まれたか 対象:テニス未経験者大学生・テニス未経験者高校生 筆者作成)



(図8 錦織圭選手の活躍等によりどのような欲求が生まれたか 対象:テニス経験者大学生・テニス経験者高校生 筆者作成)

図7「未経験者の高校生、大学生との比較」、図8「経験者の高校生、大学生の比較」に関しては、特に大きな違いはなかった。一方で、図6「未経験者全員(大学生と高校生)と経験者全員(大学生と高校生)の比較」に関しては、気になる点があった。それは、「体格差関係なく活躍したい」という項目に未経験者より経験者の方が4.5倍強い反応をしていたことである。筆者は、この結果から、経験者は未経験者と比較して「体格差関係なく活躍したい」という欲求に関して、克服しやすいと経験上思っているため反応する割合が高いと推論する。

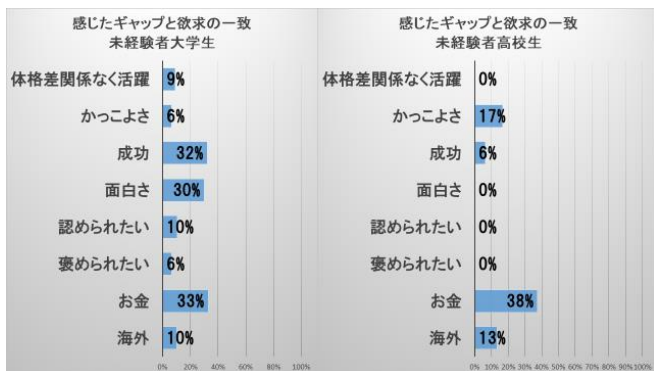
7.3 感じたギャップと同じ項目の欲求を選んだ回答



(図9 感じたギャップと同じ項目の欲求を選択した割合 対象：テニス未経験者全員・テニス未経験者全員 筆者作成) ※全員とは大学生と高校生の合計を意味する。

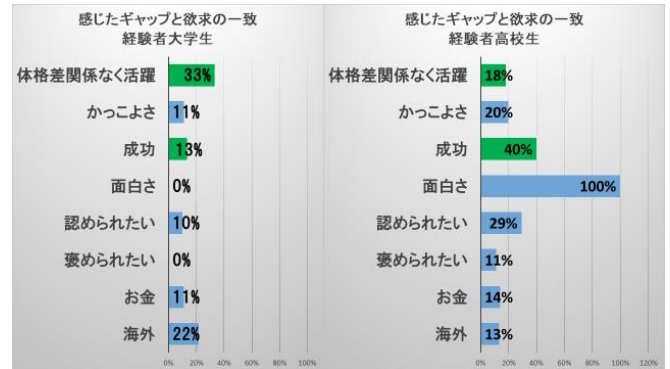
経験者と未経験者を比較してみたところ、経験者の方が未経験者に比べて、「体格差関係なく活躍したい」という項目の一致率が約3.7倍高い反応をしていた。筆者は、この結果から、経験者は未経験者と比較して、「体格差関係なく活躍」というギャップを感じた際、そのギャップは克服しやすいと経験上思っているため欲求が生まれる割合が高いと推論する。

また、経験者の方が未経験者に比べて、「お金」という項目の一致率が約2.8倍低い反応をしていた。筆者は、この結果から、経験者は未経験者と比較して、「お金」という項目にギャップを感じた際、テニスでお金を稼ぐということがどれだけ難しいことか分かっているからこそ、現実的に考えて難しいという認識が無意識にある割合が高く、欲求が生まれる割合が低いと推論する。



(図10 感じたギャップと同じ項目の欲求を選択した割合 対象：テニス未経験者大学生・テニス未経験者高校生 筆者作成)

未経験者の大学生と未経験者の高校生を比較してみたところ、未経験者の高校生は未経験者の大学生と比べて「体格差関係なく活躍」「成功」「面白さ」「認められたい」「褒められたい」という項目の一致率が圧倒的に低い反応（未経験者の高校生のほとんどの項目が0%のため比較した倍率は出せない）をしていた。今までの結果に関しては、推論できたが、この結果からの推論は出来なかった。



(図11 感じたギャップと同じ項目の欲求を選択した割合 対象：テニス経験者大学生・テニス経験者高校生 筆者作成)

経験者の大学生と経験者の高校生を比較してみたところ、経験者の大学生は経験者の高校生と比べて「体格差関係なく活躍」という項目の一致率が約1.8倍高い反応をしていた。筆者は、この結果から、経験者の大学生は経験者の高校生と比較して、「体格差関係なく活躍」というギャップを感じた際、人生経験が豊富でより現実的に考えるので現実的に可能性のある「体格差関係なく活躍」という欲求が生まれる割合が高いと推論する。

また、経験者の大学生は経験者の高校生と比較して「成功」という項目の一致率が約2.7倍低い反応をしていた。筆者は、この結果から、経験者の大学生は経験者の高校生と比較して、「成功」という項目にギャップを感じた際、人生経験が豊富なため、現実的に考えて難しいという認識が無意識にある割合が高く、欲求が生まれる割合が低いと推論する。

8. 結論

プロテニスプレイヤー錦織圭選手の影響力をテニス経験者の大学生・高校生、テニス未経験者の大学生・高校生という属性別に分け、どのようなメカニズムで各々にどのような影響を与えたかを明らかにした際、要約すると三つの事を推論することができ

る。

一つ目は、テニス経験の有無、年齢を問わず、錦織圭選手が「海外で活躍しているスーパースター選手」という印象が強いため、「成功」「お金」「海外」の三つのギャップが生まれる割合が高いと考えられる。

二つ目は、感じたギャップから欲求が生じるか否かを経験者と未経験者を比較した場合、経験者は経験からギャップで克服しやすいもの（例：体格差関係なく活躍）を知っているため、ギャップが克服しやすい（自分にもできる）と経験上思えるものであれば、欲求と一致する割合が高いと考えられる。

三つ目は、感じたギャップから欲求が生じるか否かは、経験者の大学生と高校生を比較した場合、経験者の大学生は、人生経験が豊富でより現実的に考えるのでギャップが克服しやすい（自分にもできる）と思えるものであれば、一致する割合が高いと考えられる。

7 今後の課題

本研究では、三つの推論を立てることが出来たが、その推論が正しいか否かの検証を行うことが出来なかった。そのため、三つの推論が正しいか否かの検証を行う必要がある。

また、作成した心理メカニズムにおいて、今回は「ギャップ」、「欲求」の二点にのみ注目した。しかし、心理メカニズムの一連の流れを詳しく知るためには、「動機」、「評価」、「選択」の三点にも注目し、分析・考察する必要がある。

8 謝辞

本研究を進めるにあたって、アンケートに回答して頂いた高知工科大学・高知大学・私立土佐高等学校・高知県立丸の内高等学校の皆様、ご指導頂きました那須清吾教授、ご協力頂き心より感謝申し上げます。

9 参考文献

・消費者行動論体系 著者 田中洋